
外国語教育研究

Foreign Language Institute

センター年報

2008年度



金沢大学外国語教育研究センター

目 次

巻頭言	1
スタッフ紹介	2
企画部紹介	3
2008年度事業報告	
日誌／FD 出張日誌	4
講演会報告	
テストデザインと評価	5
語学教育と評価（テストイング）	5
研究会報告	6 - 8
総合科目	9
学長戦略経費事業報告／教育改善事業報告／e-learning 活動報告	10
検定試験・検定模擬試験	11
留学支援事業報告	12
その他の事業及び活動報告	13 - 14
教材紹介	15
付録：語学教材利用状況・語学教材 [2008年度購入分]	16

語彙力を高めるために

センター長
矢淵 孝良

学生たちが書く文章（試験やレポート）を読んでいるのは表現力の乏しさである。「それを言うならこう言えばよいのに」と思うことしばしばである。この表現力の乏しさは、畢竟、語彙力の不足に起因するものと思われる。的確に伝えたい内容を表現するだけの語彙力がないのである。外国語に関して言えば、読み書きはむろんのこと、話せない、聞き取れないというのも、結局は語彙力の不足に一因があるであろう。

それでは、どれくらいの語彙力が必要なのであろうか。英語を例にとれば、英検2級(高校卒業程度)が5,100語、準1級(大学中級程度)が7,500語、1級(大学上級程度)が10,000~15,000語という目安が示されている。英検の事情にうとい私は「大学中級」と「大学上級」の意味するところを詳らかにしないが、一般的には「準1級=大卒レベル」と理解されているようである。また、大学英語教育学会の示した基本語は、「JACET8000」という通称が示すとおり、目安を8,000語に置いている。とすれば、大学生は7,500~8,000語くらいの語彙力を備えていなければならないことになる。

ところで、語彙力なるものは、赤尾の「豆単」や森の「(試験に)でる単」がバイブル的存在だった私たちの世代にとっては、英文和訳、ないし和文英訳の試験に対処するうえで必要とされるものであった。しかし、現在の英語教育の課題の一つがオーラル・コミュニケーションの能力向上であるとすれば、ただ英語のスペルと意味を覚えるだけでなく、発音すること、聞き取ることもできなくてはならない。むろん私たちの学生時代にも、そのような能力は必要だったけれども、入学試験から就職試験（私は某研究所の助手募集に応じ、採用試験を経て、この「業界」に身をおくことになった）に至るまで、英会話の能力を問われることはなかった。そんな経歴の私からすれば、今の学生は求められることが多く、まったく同情を禁じえない。とはいえ、それが時代の趨勢であれば、「生まれた時が悪かった」とあきらめて、発音を含む語彙力の向上に精を出してもらうほかない。

このような状況をふまえての提案であるが、発音を含む語彙力養成のe-learning教材を作り、アカンサス・ポータルを通じて自習できる環境を整えたらどうか。これは英語に限って言っているわけではない。ドイツ語、フランス語、中国語など、初習言語でも作る。たとえば中国語検定試験では、準4級が500語、4級が500~1,000語、3級が1,000~2,000語と、いささか幅が大きすぎるように思われるけれども、一応の目安が示されており（2級以上の目安はない）、これを参考にして作ることは可能であろう。この語彙教材に載せるのは単語と発音だけにする。意味が分からなければ辞書を引けばよい。いわば学生自身が「眼と耳から」語彙力をチェックするための資料のようなものである。ただ一方、この語彙教材の活用方法として考えられるのは、定期的に語彙力テストを実施し、合格者にはレベルに応じた単位を認定することである。たとえば中国語2,000語レベルの合格者には中国語Bを認定してもよいのではないか。

来年は本学でPC必携化が始まって4年目を迎える。学士課程の学生はほぼ全員がノートPCを持つことになる。私たちはそうした状況にふさわしい学習環境の整備に努めなければならないであろう。e-learning教材の開発もその一環にほかならない。語彙教材に限らず、「まずはできるところから始めませんか」というのが私の思いである。

末筆ながら、今年度をもって退職なさる金子靖孝先生と橋本弘樹先生に対し、これまでのご尽力に感謝しますとともに、今後のご健勝を心から祈念申し上げます。

スタッフ紹介

英 語

John Ertl (ジョン・アートル) 准教授
文化人類学

大藪 加奈 (おおやぶ かな) 教授
英文学

數見由紀子 (かずみ ゆきこ) 准教授
英語学・言語学

小林恵美子 (こばやし えみこ) 准教授
コミュニケーション学、日米比較文化論

澤田 茂保 (さわだ しげやす) 教授
英語学・言語学

西嶋 愉一 (にしじま ゆいち) 准教授
自然言語処理

根本 浩行 (ねもと ひろゆき) 准教授
社会言語学

Stephan Franciosi
(スティーブン・フランシオシ) 准教授
英語教育

結城 正美 (ゆうき まさみ) 准教授
アメリカ文学、環境文学

渡邊 明敏 (わたなべ あきとし) 教授
ユートピア思想史

ドイツ語

金子 靖孝 (かねこ やすたか) 教授
アイスランド語、ドイツ語

佐藤 文彦 (さとう ふみひこ) 准教授
近現代ドイツ・オーストリア文学

フランス語

三上 純子 (みかみ じゅんこ) 教授
フランス文学

Béatrice Leroyer
(ベアトリス・ルロワイエ) 准教授
美術史、フランス語教育

ロシア語

橋本 弘樹 (はしもと ひろき) 准教授
ロシア語学

中国語

杉村安幾子 (すぎむら あきこ) 准教授
中国現代文学

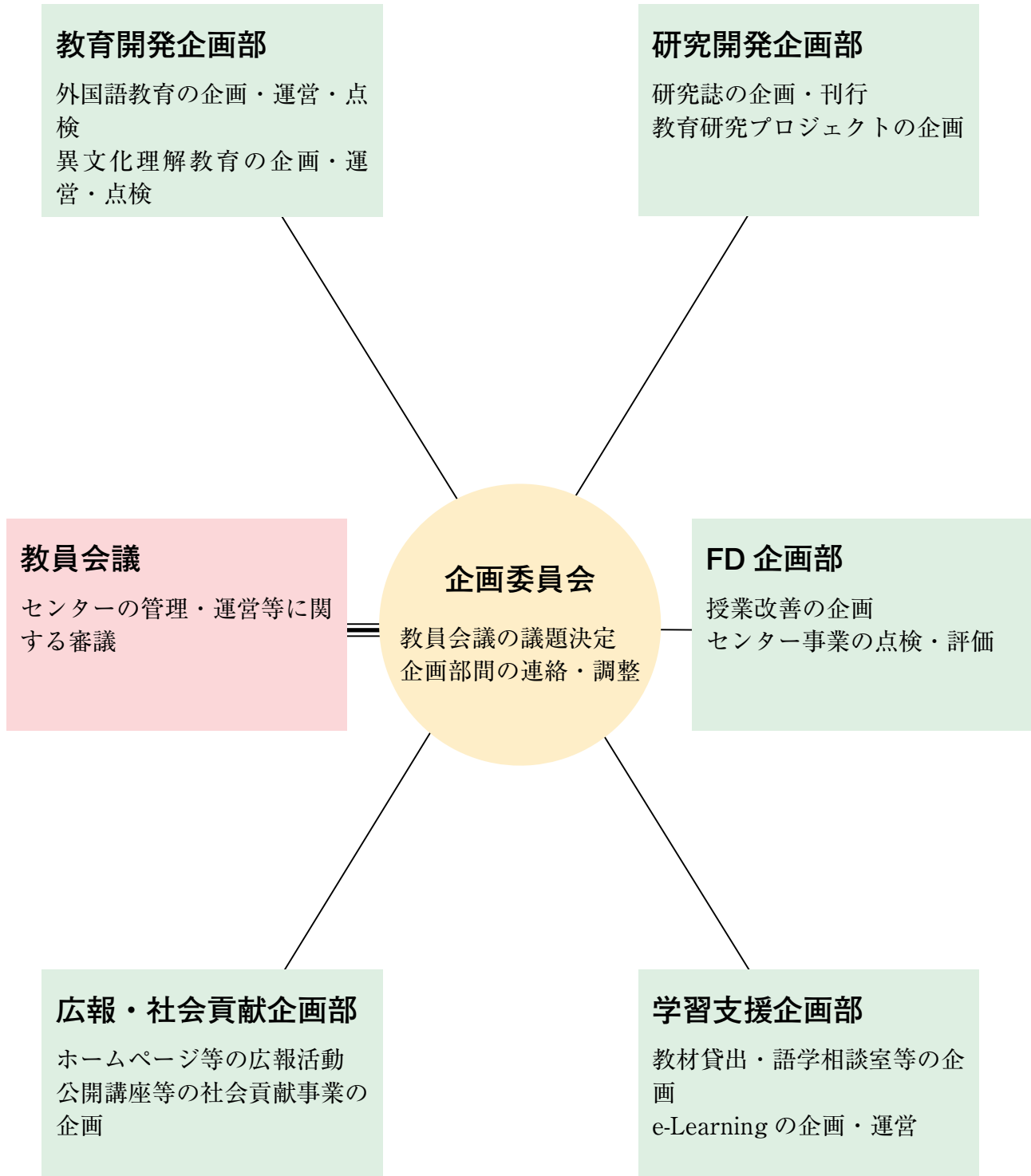
趙 菁 (ちょう せい) 准教授
日本語学、日中言語比較

矢淵 孝良 (やぶち たかよし) 教授
中国古典文学

李 慶 (り けい) 教授
中国古典文学・文献学

企画部紹介

組織図



2008年度事業報告

目 誌

2008年	5月27日	第1回研究会「成果の出る TOEIC 指導法 - TOEIC 指導者講習参加報告 -」
	6月13日	講演会「テストデザインと評価」
	16～20日	ランチョンセミナー・外国語ウィーク（フランス語、ドイツ語、中国語、英語）
	17～19日	フランス語検定模擬試験
	22日	第65回中国語検定試験
	24日	第2回研究会「スタンフォード大学での在外研究」
	7月29日	第3回研究会「ドイツ語「ひとりペア授業」の成果報告」
	30日	フランス映画の夕べ『スパニッシュ・アパートメント』
	9月24日	第1回英語 FD 研修会「ライティングクラスの導入と授業改善」
	10月21日	第4回研究会「アカンサスポータル利用者講習会」
	31日	講演会「語学教育と評価（テストイング）」
	11月10～13日	フランス語検定模擬試験
	23日	2008年度秋期ドイツ語技能検定試験 第66回中国語検定試験
	25日	第5回研究会「『ことば』を論理的に使うために必要な訓練 - 言語技術教育教員研修参加報告」
	12月17日	フランス映画の日『ルパン』『キリクと魔女』『コーラス』
	2009年	2月4日
14～15日		英語指導力開発ワークショップ
3月22日		第67回中国語検定試験
末日		『言語文化論叢』第13号・『外国語教育フォーラム』第3号・『センター年報（2008年度）』発行

FD 出張日誌

2008年	7月21～26日	つくば言語技術教育研究所の教員研修（FD 企画部より大藪を派遣、三上が参加）
	10月12日	TTT Reunion（TOEIC Teachers' Training 参加者による研究会）（西嶋が参加）
	10月31日～11月4日	JALT 国際語学教育学会（FD 企画部より小林、根本、アートルを派遣）
	12月7日	第22回獨協大学フランス語教授法研究会（三上、ルロワイエが参加）
2009年	2月14～15日、2月28日～3月1日	第5回 TOEIC スコアアップ指導者養成講座（西嶋が参加）
	3月5日	第18回広島大学外国語教育研究センター外国語教育研究集会・シンポジウム「日本の英語教育改善のための新たな展望」（研究開発企画部より結城を派遣）
	3月20日	関東甲信越英語教育学会 2008年度春季研修会（教育開発企画部より結城を派遣）
	3月21日	第18回 JACET 春季英語教育セミナー（教育開発企画部より結城を派遣）
	3月23日	第11回流通科学大学ドイツ語教授法ワークショップ（研究開発企画部より佐藤を派遣）
	3月23～27日	EAP Teacher Development（英国 ハリエット・ワット大学）（大藪が参加）
	3月28日	CIEC（コンピュータ利用教育協議会）第81回研究会（西嶋が講師として参加）

講演会報告

今年度は、語学教育の評価方法に詳しい専門家お二人を招き、試験のあり方に対する考え方を深める講演会を開催しました。

テストデザインと評価

広島大学大学院教育学研究科 松浦伸和教授

第1回の講演会は6月13日に開かれました。松浦先生は、まず試験問題は受験生が学んできたことを測る必要がある、学習指導要領が定めている実践的コミュニケーション能力（文法能力、社会言語学的能力、談話能力、方略的能力）を測る試験問題となるはずである、と述べられました。そして、そのためにはどのようなテストデザインが考えられるのか、ということを入試問題の変遷を示しながら話されました。そこで明らかになったのは、従来の和文英訳、英文和訳型の入試問題では正確さ（規則や内容）というごく一部の英語能力をテストするだけで終わっていて、適切さ（ことばの使い分け、概要の把握、速度、談話力、文章構成）を測っていない、ということでした。このことから、入試問題改善の

ポイントとして、試験問題が本当に測定すべき能力を測定するデザインになっているのか、その試験はいつ・どこで・誰が行っても同じ結果が得



られる信頼性のあるものなのか、そしてそれは運用面での利便性を備えているのか、という観点で問題作成に当たるとよい、と提言されました。入学試験問題はその大学の「顔」であり、当該大学の語学教育を社会へ伝えるメッセージなのだ、という松浦先生の言葉には、参加者一同大きく頷いていました。

語学教育と評価（テストイング）

上智大学外国語学部 渡部良典教授

第2回の講演会は10月31日に開催されました。渡部先生は、教育評価としての試験は、明確な目的、妥当性、信頼性、実用性、教育効果を備えている必要がある、とお話になりました。

特に妥当性と信頼性は、入学試験にとって大切であり、試験が意図した測定対象をきちっと測定しているのか、得点から対象能力が推測できるようになっているのか調べる必要があります。また、信頼性の問題としては、試験を実施する場所の環境や実施手順、採点方法や手順、テスト問題のレイアウトやテスト問題の保管方法など、単に試験問題だけではなく、それを取りまくハード面の管理や事務方との連携も大切であることが指摘されました。

また、大学入学試験の意義として、入学前の習熟度と共に入学後学業を行う能力があるか測る試験で

あること、大学個別試験の意義としてはセンター試験とは異なる方法で測る試験、つまり、センター試験との相関性が低く、なおかつ学んできた



ことを測れる試験であること、そして当該大学への適性を調べる試験であることを考えて問題が作成されるべきであることなどの説明がありました。

入学試験は作問者・採点者、各学類・学域、事務方が単にそれぞれの仕事を遂行するだけでなく、お互いに連携しながら行う業務であることを再確認できたことは有意義でした。

ご多用中、ご講演いただいた両先生に深く感謝申し上げます。（大藪加奈記）

研究会報告

成果の出る TOEIC 指導法 —TOEIC 指導者講習参加報告—

西 嶋 愉 一 (2008年 5月27日)



2008年度第1回研究会では、センターの西嶋愉一教員が、2月に行われた TOEIC 指導者講習の参加報告を行いました。「TOEIC を教える」ことと「英語を教える」ことの違い、成果を先に出すことで学習者のモチベーションを高めるといった考え方等が紹介され、受験者の英語力を試験で最大限に発揮させるための TOEIC 指導法について詳しい解説がありました。このほか、報告者の調査による TOEIC の最新情報も盛り込まれ、報告後、活発な質疑応答と意見・情報交換が行われました。(数見由紀子記)

スタンフォード大学での在外研究

結 城 正 美 (2008年 6月24日)

報告者の結城は、昨年秋から半年間、フルブライト研究員としてスタンフォード大学で研究をおこないました。今回の研究会ではその体験を基に、在外研究中の活動に加えて、在外研究が実現するまでのプロセス、およびその一部であるフルブライト研究員プログラムについて報告しました。その後、質疑応答を交えつつ、在外研究制度の実現に向けて活発な意見・情報交換がおこなわれました。本学の研究・教育環境を相対的にとらえ検討する良い機会となりました。(結城正美記)



ドイツ語「ひとりペア授業」の成果報告

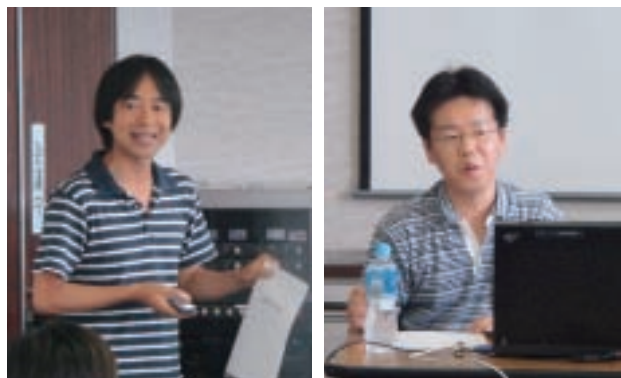
宮 下 博 幸 (人文学類) 佐 藤 文 彦 (2008年 7月29日)

ドイツ語「ひとりペア授業」とは週2回、ひとりの教員が「文法」と「会話」のペア授業を担当するものです(通常のペア授業では、文法と会話、それぞれ別の教員が担当)。今回の研究会では、昨年度

この「ひとりペア授業」を担当した人文学類の宮下博幸准教授とセンターの佐藤が、自身の授業での実践例や学生アンケートの結果をもとに、クラスの一体感が生まれやすい「ひとりペア授業」ならではの

成果について報告しました。

その後の質疑応答では、通常のペア授業（とりわけネイティブ教員と日本人教員の）で期待される学習効果と「ひとりペア授業」の成果の比較など、効果的な授業形態をめぐって、有益な議論が展開されました。（佐藤文彦記）



英語 FD 研修会 1 —ライティングクラスの導入と授業改善—

(2008年9月24日)

3学域体制を契機に人間社会学域と医薬保健学域の学生に対して英語ライティングの科目を必修修化しました。同一時間帯で三つのクラスを開講することになり、そのクラスを英文構成力の養成を目標にした授業、パラグラフ・ライティングを中心とする授業、エッセー・ライティングを目標におく授業というふうに重点別に分けることにしました。そして、

授業担当の先生に対して、授業構成についての大まかなガイドラインを配付しましたが、実際の授業実践でいろいろと問題点も顕在化していたので、前期が終わった時点でライティング担当の先生に集まって頂いて、問題点を整理して、後期や次年度の改善点などを共有することができました。（澤田茂保記）

アカンサスポータル利用者講習会

堀井 祐介(大学教育開発・支援センター) FD・ICT 教育推進室スタッフ (2008年10月21日)



第4回研究会では、まず大学教育開発・支援センターの堀井祐介教授から、アカンサスポータル及び連動した学習管理システム「WebClass」について、メッセージの送り方や小テストの作り方など具体的な使い方の説明がありました。その後、参加者は実際にページの操作を学んだり、個別の相談を行ったりしました。

会場では、会議室の機能や学生によるレポートのピアレビューなどについて次々と質問があり、終始、活発な意見・情報交換が行われました。FD・ICT 教育推進室が頼りになる教育サポート機関であることを参加者が実感できる、有意義な研究会となりました。（三上純子記）

「ことば」を論理的に使うために必要な訓練—言語技術教育教員研修参加報告

大 藪 加 奈 (2008年11月25日)

本センターは、昨年度つくば言語技術教育研究所長の三森ゆりか氏を招いて講演会とワークショップを開催しましたが、今回の研究会ではその続編として、報告者の大藪が前回取り上げられなかった活動を紹介しました。

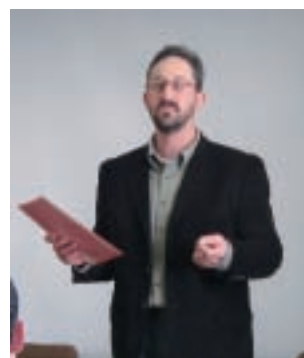
語られた物語を思い出して書く「再話」という活動では、参加者たちは、因果関係を把握することにより、早い速度で論理的に書く力が養成される過程を体験しました。また、間取りの説明など、対話式授業を通して情報を整理し、順序だてて論を組み立てさせる活動では、思考方法を習得することの大切さが強調されました。理系・医系からも参加者があり、有意義な意見交換ができました。

(大藪加奈記)



英語 FD 研修会2 —ライティング・センターのこれまでと今後について—

C. G. コンソルボ非常勤講師、M. ハモンド非常勤講師、V. レイカー非常勤講師 (2009年2月4日)



2008年度より英語Iのライティング・クラス必修化を受けて、外国語教育研究センターでは学生のライティング能力の向上を支援するために「ライティング・センター」を設置しました。このプロジェクトに講師として実際に携わって来られた先生にこ

れまでのライティング・センターの実践を報告してもらおうと共に、問題点を共有して、これからのあるべき姿について議論を深めることができました。

(澤田茂保記)

総合科目

異文化理解とコミュニケーション

矢淵 孝良

今年度、本センターが中心となって実施した総合科目（後期・木曜5限）の講義内容と担当者は以下

のとおり。所属を記してないのはすべてセンターの教員である。

第1回	ガイダンス	矢淵孝良
第2回	異文化コミュニケーション概論	矢淵孝良
第3回	中国の教育事情Ⅰ	矢淵孝良
第4回	中国の教育事情Ⅱ 苛烈な受験地獄—科挙は今も続いている	杉村安幾子
第5回	文化交流と文化侵略—中国への現代日本文化の流入	倉田 徹 (国際学類)
第6回	アーミッシュのライフスタイルから現代を考える	大藪千穂 (岐阜大学)
第7回	異文化とのビジネス	首藤 薫 (日本 IBM)・西嶋愉一
第8回	女王陛下のスパイ—イギリスの諜報活動	大藪加奈
第9回	異文化適応	小林恵美子
第10回	なぜフランスの出生率が高いのか？—フランスの結婚と家族	三上純子
第11回	多文化社会オーストラリア—異文化接触とアイデンティティ形成	根本浩行
第12回	異文化コミュニケーション論から見た相植表現 ルチラ=パリハワタナ (留学生センター)	
第13回	中国食品の安全性と危険性	矢淵孝良
第14回	総論・補足・試験の説明	学内講師
第15回	試験	学内講師

今年度の履修登録者は80名。昨年度の半数以下で、受講者の減少に歯止めがかからなかった。数年前には抽選による履修者数の調整が行われていたことを思い出すと、隔世の感を禁じえない。まあ、採点する答案枚数が少ないのはありがたいけれども。その採点の結果はといえば、S：9、A：36、B：22、C：8、不可：2、放棄：3。GPAの算出方式に従えば平均点は2.45となる。昨年度が2.22だから、かなりの上昇と言ってよい。放棄が少なかったこと（昨年度は11）、出席率が上がったことも大きい。答案の内容にも若干の進歩が見られたように感じられる。昨年度の反省に基づき、第14回の授業で試験の説明をする際、答案の書き方についても少し説明を加えたことがよかったのかもしれない。

昨年度の反省といえば、1つのテーマについて2～3回の講義で掘り下げた授業をしてほしいという要望に応えるべく、今年度は「中国の教育事情」の講義を2回に亘って実施した。もともと「就学前教育→高等教育」という現代中国の教育事情に関する話の展開を予定していたのだが、Ⅰは担当者の交代があり（私自身の能力不足のため）、古い科挙がらみの講義になってしまった。ただ、幸いにしてⅡの講義で杉村先生のフォローがあり、一定程度の関連

づけは図れたように思われる。私の出題した試験問題に対する答案の中に、明らかに杉村先生の講義内容をふまえた推察される解答があったからである。さまざまな困難が伴う課題だけれども、引き続き可能性を追求すべきであろうと考えている。

さて、「引き続き……」などと述べた舌の根も乾かぬうちに言い出すのは恥ずかしいのだが、この総合科目の担当は今年度をもって終了（ないし休止）することとしたい。異文化理解教育の必要性が失われたわけではないし、それを担当する部局として本センターが適任であるという自負に揺るぎはないが、受講者のあまりの激減ぶりを前にして、いささか授業を継続する意欲が萎えた、というのが正直な気持ちである。幸い来年度、留学生センターから「多文化共生」をテーマとする総合科目が提供されることとなり、学生たちにとって、この科目がなくなる影響は皆無に近いであろう。本センターとしては今後、より現代的な課題に即した総合科目を提供する方向で検討していきたい。

最後になりますが、これまで授業に協力していただいた先生方、とりわけ遠方から駆けつけてくださった首藤薫先生と大藪千穂先生に心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

英語ライティング教育の充実

今年度、学生に対する英作文の指導の充実を目的として、試行的にライティング・センターを開設した。前期はセンターの予算を使い、文字どおり手探り状態の運用であった。一定程度の利用者がいることを確認し、後期、これを拡充すべく学長戦略経費を申請して認められたのが本事業である。前期の反省に基づき、利用時間を昼休みとし、3人の講師、コンソルボ先生（月・金）、ハモンド先生（水）、レイカー先生（木）に依頼し、学生からの相談に対応していただいた。利用状況は多い日には9人、平均3人であった。一方、教員側の研修会・研究会も実施し、2月4日には、上記の3先生に講演していただくとともに、ライティング・センターの在り方について意見を交換した。英語に限らず、ライティング・センターのような施設は、近い将来、大学にとって不可欠な存在になると予想されるので、今回の試みはたいへん有意義なものであり、今後に生かしたい。（矢淵孝良記）

交渉教育理論を適用した 英語教育の教材開発研究

数見・大藪は平成20年度学長戦略経費（重点研究経費）の配分を受け、英語交渉力養成のための教授法研究及び教材開発を目的とする標記の研究を行った。本研究は、交渉教育理論を英語教育に効果的に応用するための理論研究と、授業実践とおとしたネゴシエーション活動教材の有効性の検証・改善を二本の柱とする。理論研究としては、交渉教育と英語教育へのその応用に関する諸研究の分析と大学対抗交渉コンペティションシンポジウム等への参加による情報収集・分析を進めた。これと並行して、平成19年度文部科学省「大学教育の国際化推進プログラム」予算により試作した教材集『教室で使えるネゴシエーション活動』を授業で運用し、より教育効果の高い活動の特定や教材内容の改善・洗練などの作業を行った。本研究で得られた成果を基に教材集の改訂版を作成し、学生の交渉能力及び英語運用能力の向上につなげたい。（数見由紀子記）

教育改善事業報告

教育開発企画部では、非常勤講師からの希望により小型ホワイトボード10枚等を購入した。リスニング、ライティング授業に利用価値が高いと思われるので大いに活用していきたい。卓上タイマー10個を購入したが、これもグループ活動などで時間制限をするときなど多様な利用法があると思われる。また、英語による授業が求められる中、教員の指針の一つとして「名古屋大学高等教育研究センター」の編集による『大学教員のための教室英語表現300』を10冊購入した。（渡邊明敏記）

e-learning 活動報告

本センターで運用している英語 e-learning（ALC NetAcademy2）のシステムについて、2008年入学の学生からは個別の登録なしに利用できるよう、システムの改善を行った。2008年以降入学の学生に配布される「金沢大学 ID」（アカンサスポータル等を利用するための共通 ID）を用いて、NetAcademy 2 を利用することができるようになった。

年度当初からの本格運用には至らなかったが、本稿をご覧いただく頃には利用可能になっている予定である。授業での利用、自習等に積極的にご利用いただければ幸いである。

なお、授業で使用される際は、システムの性能上、同時に使用できる人数に制約があるため、センター宛にご一報いただくようお願いする。

本件については、FD・ICT 教育推進室の多大なご協力を頂いた。改めて感謝の意を表する次第である。（西嶋倫一記）

検定試験・検定模擬試験

【ドイツ語技能検定試験】

2008年度も11月23日、本学総合教育講義棟において、秋期ドイツ語技能検定試験（独検）が実施された。春期の金沢星稜大学ともども、北陸三県では唯一の試験場である。今回の独検の最大の目玉は、準1級と5級が増設されたことである。その結果、昨年の79名に対し、今年は延べ109名からの出願があった。実際に出席（受験）したのは101名である。内訳は1級：1名、準1級：5名、2級：36名、3級：30名、4級：23名、5級：6名。2級の受験者の多さが目につく。その原因は、増設された準1級が2007年度までの2級に相当する一方（したがって二次の面接試験も課される）、今回からの「新」2級は、従来の2級と3級の間のレベルに相当し、さらに面接試験も課されないため、地方在住の中級の学習者にとって、きわめて魅力的な級であったためと考えられる。試験場責任者として立ち会った印象では、2級・3級の単願者および2・3級併願者に、本学の夏期語学研修（レーゲンスブルク大学）参加者が目立った。夏休みに集中的にドイツ語に触れ、その意欲が秋まで持続されたのであろう。今夏の語学研修を引率した者として、二重に喜ばしいことであった。（佐藤文彦記）

【フランス語検定模擬試験】

2008年度の実用フランス語技能検定試験の日程に合わせて、春は6月17、18、19日、秋は11月10、11、13日に、3・4・5級の模擬試験を実施した。3級5名、4級12名が受験し、5級は受験者なしであった。仏検受験者の方は、延べ61名であった。本学では、昨年度から夏休みにオルレアン大学で語学研修を行うようになったこともあり、出発前や帰国後に仏検を利用した力試しをする学生が増えている。また、今年度から1年後期の学生を対象に必修クラスに加えて「ゼミナール／充実クラス」を開講したことも、初学者の検定試験へのモチベーションを高めたようである。今後はより多面的な運用能力の養成を目指して、フランス国民教育省認定のフランス語資格試験 DELF についての情報提供や受験支援も考えてゆく必要がある。（三上純子記）

【中国語検定試験】

2008年度、中国語検定試験は例年通り三回行なった。これは日本中国語検定協会の実施に合わせて行なっているものである。一昨年と昨年は、難度の高い準1級の合格者が出、教員も我が事のように喜んだが、今年度は残念ながら合格者を出すには至らなかった。受験者総数は昨年度から微増、合格者数はほぼ横ばい状態となっている。注目すべき点は、4級の合格率の高さである。三年連続で70%前後という数値であるが、これは中国語Aを一年間しっかり学べば、4級合格は比較的容易であることを示している。また11月に行なった第66回の4級試験において、受験者6人中5人が4級の試験範囲を学習し終えていないはずの一年生であったことは、モチベーションの高い学生の存在を感じさせ、教える側としても大変嬉しく、励みになる結果である。3級・2級合格はさすがに大きな壁となっているようだが、努力の末に合格した時の喜びはひとしおであろう。今後も本学の学生には、こうした検定試験をペースメーカーとして中国語学習を継続していただいたいと考えている。

各回の級別受験者数は以下の通り。括弧内は合格者数である。（杉村安幾子記）

	第64回 (3/23)	第65回 (6/22)	第66回 (11/23)	合計
準1級	2(0)	0	3(0)	5(0)
2級	3(0)	5(2)	3(0)	11(2)
3級	7(1)	4(2)	8(4)	19(7)
4級	19(11)	5(5)	6(6)	30(22)
準4級	0	0	1(0)	1(0)
合計	31(12)	14(9)	21(10)	66(31)

留学支援事業報告

留学準備授業

留学準備クラスは、共通教育の英語Ⅱ、英語Ⅲで開講しており、留学を奨励している学類では専門科目に読み替えられるようになっています。留学準備クラスは、日本人学生のみでアカデミック英語・TOEFL 対策・異文化対応等を学ぶクラスと、金沢大学短期交換プログラムに参加している留学生と共に学ぶジョイントクラスがあります。どちらも、派遣留学を希望している学生や、留学・短期研修などで海外に行くことを考えている学生を支援するための授業で、主に外国語教育研究センターの教員が担当しています。日本人学生のみで学ぶクラスでは、留学に必要な語学試験準備だけでなく、留学先の選び方、渡航手続きや願書作成を体験することや、留学先で出会う諸問題への対応のしかた等も学びます。また、ジョイントクラスでは、留学生と一緒に文化や文学について話し合い、プレゼンテーションやプロジェクト・ワークをします。留学準備クラスの使用言語は基本的に英語で、課題の量やエッセイの長さによってレベル分けされています。(大藪加奈記)

エジンバラ大学語学研修

英国スコットランドのエジンバラ大学で開催される語学研修に参加し、現地で英語を学ぶコースです。今年度は5名の参加者が渡航前学習、現地研修、事後学習の全てを修了しました。

渡航前学習では、申し込みや研修費支払いなどの渡航手続きやホストファミリーとの連絡などが自分でできるように練習したほか、イギリスやエジンバラ市に関するテーマ別リサーチとプレゼンテーションを行って参加者間で情報を共有しました。また、これは引率者なしの研修であるため、危機管理能力の訓練は渡航前学習の中でも高い比重がおかれ、起こりうる危険について学習し、英語でシミュレーション練習やロール・プレイを繰り返しました。

現地研修では、金沢大学生同士でもなるべく英語で話すことをルールとし、日本人学生同士でかたまることなく、各国の参加者と学内外で交流できたようです。金沢大学生は授業中の発言や活動が非常に活発である、という嬉しい報告も現地クラスの先生方からいただきました。このコースは「文化体験」を重視しており、学生はツアーやパーティーを通し

てスコットランドの文化や社会に触れることができました。

事後学習では、それぞれのプロジェクトの発表会を開きました。多くの研修参加学生が後期に英語Ⅱや英語Ⅲの授業を履修して、英語の学習を続けています。(大藪加奈記)

ワシントン大学夏期語学研修

昨年度から始まった米国ワシントン州シアトルでのワシントン大学夏期語学研修、今夏は9名の学生が受講しました。7月28日～8月15日の〈セッション2〉に7名、8月25日～9月12日の〈セッション3〉に2名が参加。受講生の所属学部と学年は以下の表のとおりです。

	教育学部	文学部	経済学部	理学部	薬学部
1年生					
2年生	1	2	1		
3年生		3		1	
4年生					1

ワシントン大学夏期語学研修STEP (Short-Term English Programs) の目玉は、「英語とアメリカ文化 (Language and Culture)」と「アカデミック英語 (Academic Preparation)」から各受講生が関心や目的に応じてコースを選択できることにあります。今年度は「アカデミック英語」がセッション3のみの開講となり、選択肢の幅がやや狭まりましたが、受講生はみな「英語とアメリカ文化」の方に関心があったようで全員がそちらを選択しました。西海岸という地理ゆえでしょう、この語学研修には台湾をはじめとするアジア各国からの参加が多く、金沢大学生はアジアの学生の英語コミュニケーション力の高さに大いに刺戟を受けたようです。シアトルの美しいキャンパスでの充実した英語研修と異文化交流は、参加した学生たちそれぞれにとって大きな飛躍の機会になったと思われます。

(結城正美記)

海外留学フェア2008

「海外留学フェア2008」は6月20日3限に総合教育棟で開催された。本センターのスタッフは、海外留学相談コーナーで派遣留学や語学研修の相談にのると共に、TOEFL・iBT コーナーでも説明等に協力した。(三上純子記)

その他の事業及び活動報告

英語指導力開発ワークショップ

今年度の地域貢献として、2月14日・15日に現職教員を対象とした教員研修、「英語指導力開発ワークショップ」を金沢エクセルホテル東急で行い、初日17名、二日目15名の参加者を得ました。

この事業は、昨年度文部科学省委託事業として開催した「英語指導力開発ワークショップ」に続くものとして、「地域における英語教育の中心的役割を果たす人材の育成」を目的に企画されました。今年度発表された次期学習指導要領では、英語の授業は英語で教えることが求められています。本センターの研修は教授法のアイデア提供だけでなく、教員自身の英語力向上を目指していますので、地域のニーズと合致したといえます。1ヶ月程度の短期間の応募にもかかわらず、定員（20名）ちかい参加者を得ることができたのは、金沢市教育委員会のご協力を得られたことが大きかったと思います。

研修は、テーマを「オーラル・コミュニケーション」と設定し、金沢大学でオーラル・コミュニケーションのクラスを担当しているネイティブ・インストラクターが講師をつとめました。ワークショップではコミュニケーション活動を体験する時間と、それぞれの活動に関するディスカッションを英語で行う時間が設けられました。4～6名のグループごとに一人のネイティブ・インストラクターがついて、活動やディスカッションをリードしました。インストラクターの丁寧な指導により、臆せずに英語で活動ができた、と多くの参加者がアンケートでコメントされていました。参加者の皆様、講師の方々に深く感謝いたします。（大藪加奈記）



学習支援冊子・紀要の発行

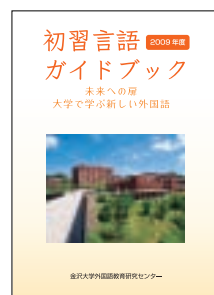
『英語学習ハンドブック』（2009年度版）



大学での効果的な英語学習に役立つ情報や履修のアドバイスなどを収録

◎新入生に配付

『初習言語ガイドブック』（2009年度版）



本学で開講している初習言語の紹介や履修上の注意などを収録

◎新入生に配付

『英語力をのばしたい皆さんのための英語Ⅱ／英語Ⅲ授業案内』（2009年度版）



英語Ⅱ・英語Ⅲを目的や関心により分類した授業案内

◎学務係で希望者に配付

『言語文化論叢』第13号

外国語教育法、外国語学・外国語文学、異文化コミュニケーションに関する論文等を掲載

『外国語教育フォーラム』第3号

外国語教育に関する論文、授業実践報告等を掲載

フランス映画鑑賞会

フランス語セクションでは、語学教育の文化的サポートとして、前期に「フランス映画の夕べ」、後期に「フランス映画の日」と銘打って、以下の作品を上映した。

7月30日(水)

L'Auberge espagnole スパニッシュ・アパートメント
(フランス・スペイン合作/2001年/日本語字幕付き)

12月17日(水)

Arsène Lupin ルパン
(フランス・イタリア他合作/2004年/日本語字幕付き)

Kirikou キリクと魔女
(フランス・ベルギー合作/1998年/日本語字幕付き)

Les Choristes コーラス
(フランス映画/2004年/日本語字幕付き)

参加者は70名ほどで、感想の欄には、知っている表現を聞き取れた喜びや初めて見たフランス映画の魅力などが綴られていた。多くの学生が参加できる時間帯を見つけるのは難しいが、今後もこうした文化的サポートを通じて学生たちの知的好奇心の喚起に努めたい。(三上純子記)

語学相談

当センター共同研究室で行っている「語学相談」に2008年前期は理系3名、文系9名、不明3名の計15名が相談に訪れた。相談内容は留学・語学研修・学習法・教材等多種に及んだ。ここには教員室或いはe相談室での数は含まれないので、総数は若干増えると思われる。後期から共同研究室での相談は中止し、アカンサスポータルで行うことになり、相談希望者は各自ポータルで担当者を選び、直接相談に行くことになった。(金子靖孝記)

ランチョンセミナー

大学教育開発・支援センター主催の2008年度「角間ランチョンセミナー」において、本センタースタッフは「外国語学習ウィーク」の4回のミニ講義を担当した。なお、朝鮮語については6月18日(水)に、非常勤講師の宋有宰先生にお話をいただいた。講義後のアンケートによれば、文化的な情報や勉強法などが特に好評であった。(三上純子記)

第45回 6月16日(月)	
フランス語の魅力と学び方	三上純子
第46回 6月17日(火)	
ドイツ語の魅力と学び方	佐藤文彦
第48回 6月19日(木)	
中国語の魅力と学び方	矢淵孝良
第49回 6月20日(金)	
TOEIC 受験の心構え	西嶋愉一

公開講座

平成20年度金沢大学公開講座として、《続・海外ニュースにみる「お国事情」》というテーマのもと、以下の講義を担当した(6月18日~7月16日)。

- 第1回 中国の食の安全性
—ダンボール肉まん事件を手がかりにして
矢淵孝良
- 第2回 知られざるワイン大国オーストラリア
根本浩行
- 第3回 新聞で恋人を見つける
—ドイツにおける恋愛・結婚事情
佐藤文彦
- 第4回 イギリスと「ヨーロッパ」の微妙な関係
—ヤードポンド法を使い続ける国
敷見由紀子
- 第5回 なぜフランスの出生率が高いのか?
—大統領も離婚する国のパラドックス
三上純子

好評だった昨年度に続き、世界各国・各地域のニュースを取り上げて、その歴史的、文化的、社会的な背景を解説することにより、マス・メディアの報道より深みのあるニュース理解が可能になるように努めた。受講者は33名(定員20)、関心と呼ぶテーマであることを再認識した。(矢淵孝良記)

市民大学院

金沢大学2008年度市民大学院基礎講座第3セッション「環日本海地域の国際交流—日本海を隔てた異文化交流の軌跡」において、本センターの教員が以下の題目で講義した。

- 2008年12月6日 「魯迅・周作人兄弟と日本」
杉村安幾子
- 2008年12月20日 「江戸時代の健康文化—養生論をめぐって」
趙 菁

この講座は開設されて以来、とても評判がよく、受講者数が毎年増えつつある。今年度の受講者も年輩の方を中心として、真摯かつ熱心であった。講義内容について、最も関心が寄せられていたのは、やはり地元金沢にかかわる部分であった。例えば、魯迅の日本留学時代の担任である敷波重次郎と金沢の関係、江戸の貸本屋と金沢の書店とのつながりなどが話題となり、講師と受講者間に活発な意見交換が行われた。受講後、メールを通して講師と情報交換する受講生もいたほどである。今後も受講者の熱意に応えられるような講義を目指していきたいと思う。(趙 菁記)

教材紹介

英語

『速読速聴・英単語 Business1200』

(松本茂監修、Z会)

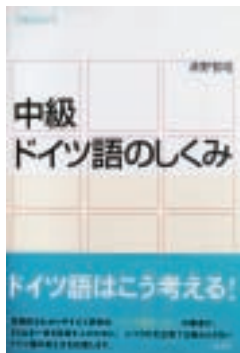


今回は上級者向けの自習教材を紹介します。『速読速聴』シリーズは重要単語を実際に使われている文脈の中で学習できる優れた自習書です。初級から上級までそれぞれのレベルに合わせたものが出版されているので各自の実力に合わせて選択してください。今

回の『Business1200』は上級者向けですので、TOEIC 700点以上を目指す人、或いは社会科学を専攻している人に特に推薦できる内容となっています。新聞・雑誌を読むのに欠かせない語彙が多く収録されているので上級英語一般に関心を持っている人も是非挑戦してください。CDが付いていますのでリスニングの練習に活用してください。(渡邊明敏記)

ドイツ語

『中級ドイツ語のしくみ』(清野智昭著、白水社)



本書の最大の魅力は説明のわかりやすさと詳しさです。文法書にありがちな無味乾燥な日本語と違い、「です・ます調」を用いながら、「話法とは?」「主語的2格と目的語的2格」など、かなり専門的な事柄にも触れられています。どの項目も見開き2ページで完結しているので、自分が苦手な部分だけを読んでも、じゅうぶん参考になるでしょう。さらに「ドイツ語の勉強のしかた」や「九州弁でアスペクトを考える」など、興味深くてためになるコラムも充実しています。同じ著者の『ドイツ語のしくみ』(白水社)は本書の弟または妹分、どちらも読み物として楽しめるドイツ語文法の解説書です。

(佐藤文彦記)

フランス語

『フランス語手紙の12か月』

(高山晶/エマニュエル・ボダン著、白水社)



本書はフランス語による手紙の書き方の本ですが、テーマを知人とのコミュニケーション手段としての手紙に絞った点に特色があります。つまり日仏の二つの家族の間で一年間に交わされた手紙を読むうちに、フランスの四季の暮ら

らしや日本の風物詩についての表現を学べるよう工夫されているのです。お花見、七夕、おせち料理などに加えて、学園祭やアルバイトを話題にした近況報告もあります。日本の日常生活を説明したい人には大変参考になるでしょう。巻末には日本紹介ミニリストも付いています。また、解説中の文豪の短信を含めて、中級者向きの対訳付き読み物としてもお薦めできます。(三上純子記)

中国語

『関口知宏の中国鉄道大紀行①～④』(徳間書店)



この単行本は関口知宏さんの旅先での出来事を詳細に記録したものです。特におすすめするのは関口さんの手になる絵日記と写真です。テレビには一瞬しか写らなかった場面も、絵日記と写真でゆっくり眺めることができ、中国の鉄道紀行の醍醐味を存分に味わうことができます。そして絵日記には、各地の中国人と交わした言葉や名勝地の説明文が、たくさん中国語で記されています。なかなか奥深い話ばかりです。ちなみに、関口さんの中国語は旅が終わるころにはほんとうに上手になったと思います。旅は言葉を上手にするものですね。中国語に関心のあるみなさんも、中国語を使って広大な中国大陸を旅しましょう。(趙菁記)

付録：語学教材利用状況（貸し出し用）

言語別	教材の種類	センター所有の教材数	利用者数 (人)
英 語	TOEIC 教材	256	72
	TOEFL 教材	159	34
	国連英検教材	15	
	英語検定問題集	57	3
	英検対策教材	41	
	その他教材	1891	135
ド イ ツ 語	検定問題集	24	2
	検定対策教材	25	
	その他教材	139	6
フランス語	検定問題集	44	6
	検定対策教材	33	1
	その他教材	280	37
中 国 語	検定問題集	60	17
	検定対策教材	20	
	その他教材	372	12
韓 国 語	検定問題集	62	
	検定対策教材	2	
	その他教材	98	1
その他の言語	ロシア語	16	2
	スペイン語	9	
	イタリア語	6	1
	アラビア語	4	
	トルコ語	3	
	ギリシア語	3	
	ハンガリー語	2	
	スワヒリ語	2	
	タイ語	4	
	その他	44	1
そ の 他	異文化理解、外国語教育法等	422	1
計		4093	331

(2008年2月～2009年1月【貸出は8月で終了】)

語学教材 [2008年度購入分]

英 語

- ・ ENGLISH JOURNAL (CD 付)
 - ・ CNN ENGLISH EXPRESS (CD 付)
 - ・ 英検 1 級 全問題集 (CD 付)
 - ・ Cracking the TOEFL iBT with Audio CD, 2009 Edition
 - ・ 2 か月で攻略 新 TOEIC テスト 730 点！
- 他 241 点

ドイツ語

- ・ 独検過去問題集 2008 年度版
 - ・ しっかり身につくドイツ語トレーニング
 - ・ ドイツ語の基本 文法と練習 第 2 版
 - ・ CD ブック 基礎徹底マスター！ドイツ語練習ドリル
 - ・ CD ブック よくわかるはじめてのドイツ語
- 他 3 点

フランス語

- ・ 仏検公式問題集 2008 年度版 (CD 付)
 - ・ 「ベルサイユのばら」で学ぶフランス語
 - ・ たっぷり聞いてしっかり話せる！ 自然なフランス語の上達法教えます
 - ・ 宇宙人のためのフランス語会話
- 他 40 点

中国語

- ・ 中国語ジャーナル (CD 付)
 - ・ 聴く中国語 (CD 付)
 - ・ 中検準 1 級・1 級問題集 2008 年度版 (CD 付)
 - ・ 身につく中日・日中辞典 (CD 付)
 - ・ 中国語耳
- 他 26 点

韓国語

- ・ 韓国語ジャーナル (CD 付)
 - ・ ハングル能力検定試験 過去問題集
- 他 5 点

そ の 他

- ・ ロシア語能力検定 3、4 級合格への手引き



外国語教育研究センター年報 2008年度

2009年3月発行

金沢大学外国語教育研究センター 広報・社会貢献企画部編

920-1192 金沢市角間町

電話：076-264-5760 fax：264-5993

<http://fliwww.ge.kanazawa-u.ac.jp/>

flijimu@ge.kanazawa-u.ac.jp

